

## 福山市教育委員会会議（第13回）議事日程

2025年（令和7年）3月14日

午後3時 於：教育委員室

日程第1	会議録の承認について	
日程第2	教育長報告について	1
日程第3	令和7年3月定例市議会答弁報告	2
日程第4	議第58号 臨時代理の承認を求めることについて（議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出について）	18
* 日程第5	議第59号 臨時代理の承認を求めることについて（教職員の人事）	

\*は非公開予定

教育長報告

2月	11日	火	
	12日	水	文教経済委員会
	13日	木	叙位叙勲授与式
	14日	金	学校訪問（川口東小） 学校元気大賞部門表彰（伊勢丘小） 生活安全推進協議会（60会議室）
	15日	土	
	16日	日	第20回世界バラ会議福山大会協賛事業「ふくやまバラの書道展」表彰式（ふくやま美術館）
	17日	月	民間フリースクール連絡協議会（市民参画センター） 学校訪問（駅家中）
	18日	火	学校元気大賞部門表彰（城北中） 学校元気大賞部門表彰（精華中） 学校訪問（御野小）
	19日	水	学校元気大賞部門表彰（東朋中） 学校元気大賞表彰式（中会議室）
	20日	木	本会議
	21日	金	令和6年度文部科学大臣優秀教職員表彰の伝達式（教育長室）
	22日	土	
	23日	日	
	24日	月	
	25日	火	
	26日	水	
	27日	木	
	28日	金	
3月	1日	土	令和6年度（第22期）福山少年少女発明クラブ修了式（商工会議所）
	2日	日	
	3日	月	本会議
	4日	火	本会議
	5日	水	本会議
	6日	木	本会議
	7日	金	文教経済委員会 寄附受納式〔JFEホールディングス株式会社〕
	8日	土	
	9日	日	
	10日	月	予算特別委員会
	11日	火	予算特別委員会
	12日	水	予算特別委員会
	13日	木	予算特別委員会
	14日	金	予算特別委員会 第13回教育委員会会議

令和7年3月定例市議会（2月20日～3月21日）教育委員会 答弁一覧

【代表質問】

- ・水曜会 連石 武則 議員
- ・公明党 宮本 宏樹 議員
- ・誠友会 能宗 正洋 議員
- ・市民連合 池上 文夫 議員
- ・新政クラブ 浜本 将矢 議員

【一般質問】

- ・誠友会 小畠 崇弘 議員
- ・無所属 石岡 久彌 議員

※記載内容については、福山市議会の正式な記録ではありません。

順序	1	質問日	3月3日	会派名	水曜会	名前	連石 武則
----	---	-----	------	-----	-----	----	-------

発言の要旨	
3	多文化共生社会について
	(3) 外国籍児童等への支援について
1 2	教育行政について

[教育長答弁]

外国籍児童等への支援についてです。

日本語を母語としない児童生徒が増加しており、学校生活や学習環境へのサポートの重要性が増しています。

このため、旧郷分幼稚園に初期指導教室を開設し、編入学直後から1ヶ月間、1日3時間の語学指導等を実施し、専門性の高い指導者から、

- ・ひらがな、カタカナ、簡単な漢字の読み書き
- ・日常会話、学校生活に必要な語彙と表現

等を集中的に学ぶこととしています。

また、日本語の習得だけでなく、日本の学校文化に触れる体験も取り入れ、給食、掃除等の学校生活のルールを学びます。初期指導教室修了後は、それぞれの在籍校で週8時間程度の日本語指導を受けながら学校生活を送ります。

次に、日本人児童生徒に対しては、社会や道德等の授業で国籍に関係なく互いに尊重し合い差別や偏見をもたずに接することなどを学ぶことで、多文化共生への理解を深めています。引き続き外国人児童生徒が、学校で楽しく、安心して過ごせるよう、取り組んでまいります。

次に、学力課題についてです。

全国学力・学習状況調査では、国語や算数・数学などの教科学力が、国・県の平均と比較して下回る状況が続いており、とりわけ、近年、正答率40%未満の児童生徒の割合が増加していることに強い危機感を持っています。

学力と自己肯定感の間には、一定の相関関係があるとの分析もあり、未来を担うこどもたちに必要な力を育てていく観点からも学力向上は喫緊の課題であると捉えています。

次に、新年度の重点施策についてです。

新年度学びづくり課内にプロジェクトチームを設けるとともに、学力向上支援事業として、小学4年生・5年生、中学1年生・2年生を対象に、国語及び算数・数学に関する学力定着状況調査を実施し、こどもたちの学力の状況を客観的かつ詳細に把握することとしています。調査によって明らかになった一人一人の課題を早期に改善できるよう、分析結

果や算数・数学に関する多数の問題が搭載されたデータベースなども活用しながら、指導や支援の充実を図ってまいります。

次に、校長との面談の状況等についてです。

面談では、全校長が、学力向上・定着の取組の必要性を認識しており、既に漢字練習や計算ドリル等を毎日実施したり、各種検定試験を新たに取り入れたりするなどの取組を始めている学校もあります。

次に、学力向上に向けた諸課題の受け止めと、今後の対策の具体についてです。

全国学力・学習状況調査において、本市の児童生徒は、平日の学習時間が30分未満の中学校3年生の割合が20.1%、ゲームを1日3時間以上する小学校6年生の割合が37.1%、中学校3年生の割合が40.7%と、それぞれ全国平均を大幅に上回っており、学力の定着を図るには、宿題を含めた家庭学習の時間を確保する必要があると考えています。

また、長時間のスマートフォンの使用やゲームは、依存症のリスクや脳の発達への悪影響、さらには昼夜逆転して不登校の原因になることなども指摘されています。こうした状況も大きな課題であると受け止め、2月の校長研修では、脳科学の専門家を招いて講演を行ったところです。学力の向上には、近道や魔法があるわけではなく、学力定着状況調査の分析結果などを活用し、こどものつまずきを早期かつ的確に把握して、丁寧に対応するとともに「読む」ことや「書く」ことの反復など、基礎的なことを地道に進めていくことが必要です。学校や保護者と連携を図りながら、こうした取組を着実に進め、学力の向上・定着に取り組んでまいります。

順序	2	質問日	3月3日	会派名	公明党	名前	宮本 宏樹
----	---	-----	------	-----	-----	----	-------

発 言 の 要 旨	
15	教育行政について
①	就任1年を迎えての感想
②	学校教育環境の在り方
	ア 学校再編の成果と課題
	イ 本市が目指す学びを実現する学校教育環境の在り方
③	学力向上プロジェクト
④	不登校支援について
⑤	外国人児童生徒の支援について

〔教育長答弁〕

1年を振り返っての感想についてです。

学校訪問や先生方との面談等を通して、多くのこども達は素直で生き生きと学校生活を送っており、先生方は真摯にこども達に向き合っていると感じました。

その中で、懸案の学力向上について、校長先生方は、本市の現状や取組の必要性を認識しており、意識を共有する中で、既に新たな取組を始めている学校もありました。

このほか、増え続けている不登校や外国人児童生徒、特別支援学級に在籍するこどもたちへの支援、また、教職員や支援員の人材不足など、本市の直面する課題について現状を認識することができたと考えています。

これらの課題については、新年度の事業として新たに着手するなど、引き続き有効な対策を講じてまいります。

次に、学校再編の成果と課題についてです。

再編した学校のこどもたちは、地域の方々の温かい協力を得て再編で目ざしている多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ姿に向け、切磋琢磨しながら着実に力をつけ成長しています。再編後の学校のアンケート調査では、9割以上の児童生徒が「学校が楽しい」と、授業についても『「分かった・できた』と実感することがよくある」と答えています。

また、保護者は、「仲間が増えて、いろいろと刺激を受けて成長している」「社会に出ていく上で、人との関わりを学んでいかなければならないので、人数が多いことはメリットがある」と回答するなど、こどもが多様な友だちと関わり、人間関係を築きながら成長している姿を通して、再編後の学校生活を肯定的に捉えています。

また、再編後も地域とのつながりを大切にし、どの学校でも多彩な地域資源を活用した特色ある教育活動が展開されています。

一方で、開校当初、新しい環境になかなか馴染めない、友だち関係がうまくいかないといったこどももいました。対話を大切にした個別の支援や仲間づくりを行うことで、だんだんと友だちが増え、学校生活に馴染んでいきました。

次に、本市がめざす学びを実現する学校教育環境の在り方についてです。

本市では、こどもたちが未来に夢や希望を持ち、自ら学び育っている姿を思い描き、

- ・よりよい社会をつくるために自ら主体的に考え行動できること
- ・福山に愛着と誇りを持ち、様々な世界で活躍すること

をめざし、学びに向かう力、学び続ける力を育成する学校教育を推進しています。

こどもたちを取り巻く環境や学校の課題はより複雑化、多様化しており、一定の集団規模を確保する中で、一人一人の興味や関心、理解度に応じた「個別最適な学び」と対話を通してより良い学びを生み出す「協働的な学び」の一体的な充実、地域や社会と連携・協働した学校運営の推進など、義務教育学校をはじめとした新しい時代の学校教育環境の整備を進めていく必要があると考えています。今月新たに設ける学校教育環境検討委員会にこれまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方など3つの事項を諮問する予定です。

今後、答申を踏まえた新たな基本方針の策定に取り組んでまいります。

次に、学力向上プロジェクトについてです。

全国学力・学習状況調査において、国語や算数・数学などの教科学力が国・県の平均と比較して、下回る状況が続いており、とりわけ、近年、正答率40%未満の児童生徒の割合が増加していることに危機感を持っています。

このため、新年度、学びづくり課内に、プロジェクトチームを設けるとともに、学力向上支援事業として、小学4年生・5年生、中学1年生・2年生を対象に、国語及び算数・数学に関する学力定着状況調査を実施し、こどもたちの学力の状況を客観的かつ詳細に把握することとしています。

そのうえで、調査によって明らかになった一人一人の課題を早期に改善できるよう、分析結果や算数・数学に関する多数の問題が搭載されたデータベースなども活用しながら、指導や支援の充実を図り、学力の向上に取り組んでまいります。

次に、不登校支援についてです。

本市の2023年度（令和5年度）の不登校児童生徒数は、公立小中学校で、1,560人で4年連続増加しています。

不登校の要因は、

- ・学校生活に対してやる気が出ない
- ・生活リズムが崩れている など、様々です。

その背景には、コロナ禍の行動制限や学習環境の変化によって、「無理して学校に行かなくてもいい」という意識が児童生徒や保護者に広がったことなどがあると捉えています。

課題は、不登校児童生徒のうち、学校や関係機関等からの支援が届いていない、いわゆるどこにも繋がっていない児童生徒がいることです。

こうした状況を踏まえ、今年度、学びづくり課内に不登校支援チームを設置し、どこにも繋がっていない児童生徒について、学校や関係機関と連携しながら適切な支援に繋げるための取組を進めています。

また、新年度は、新たに3校、校内フリースクールに常駐する支援員を配置する等、体制の充実を図り、学級に位置付けない児童生徒が安心して過ごせる居場所を確保することで、不登校の未然防止に取り組んでまいります。

更に、不登校等で自宅から出ることができない児童生徒に対して、メタバースを活用しインターネット上の仮想空間に教室を設けて、教科や興味のあることを学び、スタッフや他の利用者とコミュニケーションを図ることで社会との接点を持ち、フリースクールへの通室や学校への登校につなげます。

このほか、山野地域の自然を生かしたフリースクールの定期開催など多様な学びの場を充実させます。これらの事業を展開していくことで、不登校児童生徒の社会的自立を支援してまいります。

次に、外国籍児童等への支援についてです。

日本語を母語としない児童生徒が増加しており、学校生活や学習環境へのサポートの重要性が増しています。

このため、旧郷分幼稚園に初期指導教室を開設し、編入学直後から1ヶ月間、1日3時間の語学指導等を実施します。

専門性の高い指導者から、

- ・ひらがな、カタカナ、簡単な漢字の読み書き
- ・日常会話、学校生活に必要な語彙と表現などを集中的に学ぶこととしています。

具体的には、

- ・友達や先生との関係をつくるために、あいさつや物の貸し借りの伝え方
- ・学校生活を円滑に送るために学習活動で使用する教科や道具の名前

などを文字の学習と組み合わせながら、進めていきます。

また、日本語の習得だけでなく、日本の学校文化に触れる体験も取り入れ、給食、掃除等の学校生活のルールを学びます。

初期指導教室修了後は、それぞれの在籍校で週8時間程度の日本語指導を受けながら、学校生活を送ります。

引き続き、外国人児童生徒等が、学校で安心して、生活できる支援体制づくりに取り組んでまいります。

順序	3	質問日	3月4日	会派名	誠友会	名前	能宗 正洋
----	---	-----	------	-----	-----	----	-------

発 言 の 要 旨	
15	教育行政について
①	新年度に向けた学力向上にかかる教育長の所見
②	教職員研修について
ア	教科の専門性パワーアップ研修
イ	広島県教育委員会との連携
③	福山市学校教育環境検討委員会について
ア	福山市学校教育環境検討委員会への応募数と決定者数
イ	検討委員会へ諮問された内容のねらいと、どういう議論を期待されているのか
ウ	答申後の基本方針・整備計画策定等のスケジュール

〔教育長答弁〕

学力向上についてです。

全国学力・学習状況調査において、本市の国語や算数・数学などの教科学力が国・県の平均と比較して、下回る状況が続いており、とりわけ、近年、正答率40%未満の児童生徒の割合が増加していることに危機感を持っています。

学力については、基礎的な知識・技能とそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力等の双方を育てていくことが大切であり、とりわけ、その学年で身に付けることを着実に身に付けていくことが重要です。

このため、新年度、学びづくり課内にプロジェクトチームを設けるとともに、学力向上支援事業として、小学4年生・5年生、中学1年生・2年生を対象に、国語及び算数・数学に関する学力定着状況調査を実施し、こどもたちの学力の状況を客観的かつ詳細に把握することとしています。そのうえで、調査によって明らかになった一人ひとりの課題を早期に改善できるよう、算数・数学に関する多数の問題が搭載されたデータベースなども活用しながら、指導や支援の充実を図ってまいります。

学力の向上には、近道や魔法があるわけではなく、調査の分析結果などを活用し、こどものつまづきを的確に把握して、丁寧に対応していくことが必要です。学校や保護者と連携を図りながら、こうした取組を着実に進め、学力の向上に取り組んでまいります。

教職員研修についてです。

本市では、教職員の授業力と専門性の向上を図ることを目的に、市内一斉研修、初任者研修、福山教育フォーラム等、教材研究を中心に据えた52の研修を実施しています。

今年度新たに、教科の専門性パワーアップ研修を企画し、中学校国語・数学・社会・理科の4教科で講師を招聘し、希望した10名程度の教職員が、学習指導要領に立ち返りながら、教材研究、授業実践を行っています。

各教科の受講者は、市内一斉研修において、研究内容の共有や授業提案をすることで、他の教職員に、めざす授業の具体を示しています。学力の基盤となる言葉と数の理解を深める授業改善の過程は、資料や動画にまとめ、教科等を超えて教職員に広く伝わるよう、管理職研修や中堅教諭研修等で共有しています。

2月に実施した教職員アンケートでは、「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」という質問に、肯定的な回答をした教職員は、96.5%でした。

広島県教育委員会とは、これまでも、主任・主事研修や市内一斉研修等で、連携しながら研修を進めています。

今後は、より一層の連携を図り、初任者研修では、今年度まで4回実施していた合同開催を、次年度は10回に拡充し、緊密な連携を図ることとしています。

今後も、子どもたちが確かな学力を付けていくよう、国や県の教育動向を踏まえながら、教職員が起点となり、学び高め合う研修を推進していきます。

福山市学校教育環境検討委員会についてです。

始めに、市民公募委員については、3名程度の募集に対して18名の応募があり、書類審査や面接により、4名の方を選考いたしました。

今後、検討委員会へは、こどもたちを取り巻く環境やこれまでの学校再編の成果と課題を踏まえ、本市がめざす学びを実現する学校教育環境について、

- ・これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方
- ・新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方
- ・学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方

の3つの事項を諮問することとしています。

検討委員会では、主には、児童生徒数が減少していく中、こどもたちが多様性を認め合いながらたくましく生きていく力をつけていけるよう一定の集団規模の教育環境の整備のほか、学校施設の老朽化対策を教育環境の向上と一体的に推進していくための環境整備や、コミュニティ・スクールを基盤とした教育活動を推進していくための学校と保護者、地域住民との連携・協働について御検討いただきたいと考えています。

次に、今後のスケジュールについてです。

本年9月ごろを目途に答申をいただき、その後新たな基本方針の素案を作成し、パブリックコメントを実施した後、来年度中に基本方針を策定、公表する予定です。

その後、基本方針に基づき、具体の整備計画を策定してまいります。

順序	4	質問日	3月4日	会派名	市民連合	名前	池上 文夫
----	---	-----	------	-----	------	----	-------

発 言 の 要 旨	
1	市長の政治姿勢について
	(2) 学校教育における平和教育の現状と今後の方針
5	教育行政について
①	外国にルーツを持つ子どもの教育機会の確保
②	学校トイレの洋式化について
	ア トイレの洋式化に向けた今後の整備方針
	イ 学校トイレの環境上の課題

〔教育長答弁〕

学校教育における平和教育の現状についてです。

各学校では、社会科や総合的な学習の時間に、戦争や平和を題材にして、調べ学習等で、平和や命の大切さについて学んでいます。

また、原爆の悲惨さや平和の尊さについて考えるために、広島平和記念資料館の展示品の見学だけでなく、被爆者や被爆体験伝承者による講話を聞いている学校や8月8日の市民平和のつどいに参加し、音楽や言葉によるメッセージを発信している学校もあります。

さらに、今年開催される世界バラ会議福山大会を、児童生徒にとってまたとない平和教育の機会と捉え、2年前から全校で「Rose & Peace教育」として、福山空襲やばらのまちづくりの歴史等、平和についての考えを深める学習や取組を進めています。

今後も、誰もが安心して過ごせる平和な社会を将来に引き継いでいけるよう、各学校で平和教育の取組を継続してまいります。

次に、外国にルーツを持つ子どもの教育機会の確保についてです。

始めに、日本語教育の指導の充実についてです。新年度、新たな取組として、日本語初期指導教室を旧郷分幼稚園に開設し、1ヶ月間初期指導を行うこととしています。こども達はその後、それぞれの在籍校において、引き続き、週8時間程度の日本語指導を受けます。

また、初期指導教室と在籍校が連携し、学習状況などの共有や教職員への専門的な指導・助言など、継続的なサポート体制を構築することで、日本語教育の充実を図ってまいります。

次に、日本語教室の拡充についてです。近年、日本語を母語としない児童生徒が増加しており、その国籍も多様化しています。

また、居住地も様々であり、今年度は3校に日本語教室を設置するとともに、44校に日本語指導の非常勤講師を配置しています。言語は16に広がっており、専門性のある教

員の確保が大きな課題となっています。今後も、外国人の増加が見込まれており、引き続き、広島県と連携して、人材確保に努め、支援体制づくりを進めてまいります。

また、保護者への支援については、翻訳アプリを活用して対話をしたり、児童生徒を通じて保護者対象の日本語学習会等の情報を提供したりしています。

次に、多文化共生教育の推進についてです。社会や道德等の授業で、国籍に関係なく互いに尊重し合い、差別や偏見をもたずに接することなどを学ぶことで、多文化共生への理解を深めています。引き続き、外国人児童生徒が、学校で楽しく、安心して過ごせるよう、取り組んでまいります。

次に、学校トイレの洋式化についてです。

2016年度（平成28年度）から2018年度（平成30年度）までの3か年、トイレの洋式化に集中的に取り組む、全ての学校において、校舎の洋便器数は文部科学省の基準を満たしています。

その後も、トイレの改修工事や校舎の改築工事の機会を捉えて洋便器の数を増やしており、今年度は、小学校11校60か所と中学校5校24か所の和便器を洋便器に交換しています。今後も一部の和便器は残しつつ、計画的にトイレの洋式化を進めていく考えです。

次に、学校トイレの環境上の課題についてです。

昨年9月、「トイレが老朽化し、こどもたちが使いづらい思いをしている」という市民意見を受け、実態を把握するため、アンケート調査を実施しました。長年の使用による臭いや汚れのほか、水流が弱い、照明が暗いといった課題が把握できました。今後もトイレ環境を改善するため、電気のLED化をはじめ、施設の長寿命化改修時等を捉え、床・壁・建具、男女の間仕切り壁等の内装や給排水設備の改修工事など、より快適な教育環境の整備に取り組んでまいります。

順序	5	質問日	3月5日	会派名	新政クラブ	名前	浜本 将矢
----	---	-----	------	-----	-------	----	-------

発 言 の 要 旨	
1 2	教育行政について
①	教育情報セキュリティポリシーについて
ア	情報管理対策について
イ	教育情報セキュリティポリシーの策定
ウ	情報モラル教育
②	コミュニティ・スクールの取組
ア	今後の全校への導入に向けた進め方
イ	コミュニティ・スクール推進員の活用
③	部活動の地域移行の取組
④	学力向上支援事業について

〔教育長答弁〕

学校教職員に対する情報管理対策についてです。

学校に存在する児童生徒や保護者の名簿、成績関係の情報、作品などの様々な個人情報の取り扱いについては、福山市個人情報の保護に関する法律施行条例及び福山市情報セキュリティポリシーに則り適切に保護対策を講じています。

個人情報を含むものは紙媒体か電子媒体かに関わらず、原則持ち出しを禁止しており、やむを得ず持ち出す場合は、管理職の許可を得て持ち出し簿に記載し、適正に管理することとしています。

また、教育委員会が実施する各研修や校内研修においても、個人情報の取り扱いについて私物のデジタルカメラなどの校内での利用の原則禁止や教職員用タブレットのパスワード設定など具体的な個人情報保護対策を繰り返し徹底しています。

次に、教育情報セキュリティポリシーの策定についてです。

現在本市では、市の統一された方針である福山市情報セキュリティポリシーに基づき、福山市学校教育情報セキュリティ実施手順を策定し、学校の情報セキュリティ対策を実施しています。新年度からの統合型校務支援システムの導入にあたっては、成績や出欠、健康診断、指導要録等の個人情報について、データの暗号化やアクセス制御等の対策を講じたシステムで一元管理し、情報セキュリティの強化を図ることとしています。

また、新しい技術を活用した教育DXが進展する中、クラウドサービスへの対応など、セキュリティ対策も高度化しています。それを受け2024年（令和6年）1月に改訂された国のガイドラインに基づき策定する教育情報セキュリティポリシーにつきましては、

統合型校務支援システムによる対策も反映するほか、学校の運用実態を踏まえ、より実効性のある対策基準となるよう、策定に向け取り組んでまいります。

次に情報モラル教育についてです。

各学校は、デジタル社会に主体的に参画する力を養うため、道徳の教材や、文部科学省の情報モラル教育ポータルサイト等を参考に、発達段階に応じた情報モラル教育をカリキュラムに位置づけ、計画的に実施しています。

これまでの取組で、児童生徒は

- ・ パスワードを他人に教えない。
- ・ 情報の真偽を確かめて、情報発信をする。
- ・ 本人の許可なく個人情報をネット上に投稿しない。

など、情報セキュリティ・情報モラルについての理解を深めており、機器の正しい運用方法やトラブルの未然防止につながっています。

次に、コミュニティ・スクールの導入に向けた進め方についてです。

コミュニティ・スクールは、子どもを中心に据えて、学校と保護者・地域住民が目標やビジョンを共有し、一体となって地域の子どもたちを育てていく取組です。

本市では、韮の浦学園、想青学園など、学校再編に際し、学校と保護者・地域住民が熟議を重ねてきた学校から導入を始め、現在19校となっており、新年度は24校、2026年度（令和8年度）には、全校導入する予定です。この間、教職員や地域住民等を対象に、導入校区の具体的な取組を踏まえながら、コミュニティ・スクールへの理解を進める研修を継続的に実施してきました。

また、学校や地域からの要望を受け、担当者が個別に訪問し、コミュニティ・スクールの仕組みや既存の組織との違いの説明や導入準備に係っての助言などを行っています。

今年度の教育フォーラムでは、教職員、保護者、交流館長等、約2500人がオンラインで集い、導入校区の取組をもとに、自校区の教育活動の充実に向けて人的・物的資源を整理し、導入までに準備することを協議しています。

引き続き、研修の充実にも努めるとともに、導入前の学校については、委員の人選等を計画的に進めていけるよう支援してまいります。

次に、コミュニティ・スクール推進員についてです。

文部科学省は、希望する教育委員会や学校等に対して、豊富な情報や実績を有するコミュニティ・スクール推進員を派遣しています。本市では、これまでも推進員が講師となり、国の先進的な事例を踏まえた研修や、助言を行いながら熟議を進める研修を実施しています。今後も、各校区のニーズに応じて、推進員を積極的に活用しながら、コミュニティ・スクールの基盤とした教育活動の充実を図ってまいります。

次に、部活動の地域移行についてです。

2022年度（令和4年度）からの3年間、広島県の補助事業を活用し、8つの中学校において、バドミントン部、ソフトテニス部、卓球部を地域指導者や競技団体から派遣された指導者が指導するモデル事業を実施しました。

成果としては、

- ・ 専門的な指導を受けられること等による生徒の高い満足度
- ・ 教員の時間外勤務の減少等 が、

課題としては、

- ・ 指導者数の確保
- ・ 安全管理体制の構築 等があげられます。

全国的に、地域クラブ活動の運営団体や実施主体の体制整備、指導者の確保等の課題解決に時間を要しており、2024年（令和6年）12月のスポーツ庁及び文化庁が設置する有識者会議では、学校と地域を二項対立で捉えるのではなく、地域全体で支え、より豊かで幅広い活動を可能にすることを目指し、名称を「地域移行」から「地域展開」に変更することや、次期改革期間を2026年度（令和8年度）から2031年度（令和13年度）として取り組むこと等が示されました。

本市では、引き続き部活動指導員を増員することで、地域連携を進めていきます。

将来的には、地域の指導者が、合同部活動や拠点校での部活動等が担えることを目指し、生徒にとって持続的に活動できる環境づくりに取り組んでまいります。

次に、学力向上支援事業についてです。

全国学力・学習状況調査において、国語や算数・数学などの教科学力が国・県の平均と比較して、下回る状況が続いており、とりわけ、近年、正答率40%未満の児童生徒の割合が増加していることに危機感を持っています。

学力の向上は、その学年で身に付けることを着実に身に付けていくことが重要です。このため、新年度、学力向上支援事業として、小学4年生・5年生、中学1年生・2年生を対象に、国語及び算数・数学に関する学力定着状況調査を実施し、こどもたちの学力の状況を客観的かつ詳細に把握することとしています。そのうえで、調査によって明らかになった一人ひとりの課題を早期に改善できるよう、分析結果や算数・数学に関する多数の問題が搭載されたデータベースなども活用しながら、指導や支援の充実を図り、学力の向上に取り組んでまいります。

順序	6	質問日	3月5日	会派名	誠友会	名前	小島 崇弘
----	---	-----	------	-----	-----	----	-------

発 言 の 要 旨	
1	多文化共生社会の実現について
	(4) 外国人児童生徒における現状、課題、課題解決のための取組について
2	第三次福山市教育振興基本計画について
	① 教育基本法の目標について
	② 子どもたちの規範意識や道徳性の学びについて
	③ 教育目標の点検、評価について

〔教育長答弁〕

外国人児童生徒等教育と多文化共生の現状と課題についてです。

今年度、小中学校で日本語指導を受けている児童生徒は151名で、5年前と比べ約2倍に増加し、学校生活や学習環境へのサポートの重要性が増しています。

このため、日本語習得のための専門的な指導や学級担任と日本語担当教員の連携体制の構築などに取り組んでいく必要があります。

次に、旧郷分幼稚園の活用についてです。当該施設は、市の中央部に位置し、既に空調やトイレといった施設環境が整っており、速やかに開設できることなどから、選定したものです。今後、教室に必要な備品を整備し、受入れ体制を整えてまいります。

初期指導教室では、編入学直後から1ヶ月間、1日3時間の語学指導等を実施します。運営等については、日本語教師資格をもつ専門性の高い指導者に委託し、

- ・ひらがな、タカナ、簡単な漢字の読み書き
- ・日常会話、学校生活に必要な語彙と表現 等を集中的に学ぶこととしています。

また、地域資源を活用しながら、食事や遊びなど日本の生活習慣や文化に触れる体験活動等を行うことも考えています。初期指導教室修了後は、それぞれの在籍校で週8時間程度の日本語指導を受けながら、学校生活を送ります。

支援団体との連携については、受け入れを円滑に進めるために、情報共有や意見交換をするなど、体制づくりが必要と考えています。家庭・家族への支援については、翻訳アプリを活用して対話をしたり、児童生徒を通じて保護者対象の日本語学習会等の情報を提供したりしています。

義務教育修了後の支援については、進路選択に係る必要な情報を、保護者や本人に提供できるよう取り組んでまいります。

次に、第三次福山市教育振興基本計画についてです。

この計画は、教育基本法に基づき、本市における教育振興のための施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。

策定にあたっては、国の教育振興基本計画を参酌しており、「道德心を培う」ことや「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国の郷土を愛する」ことについては、道德の授業をはじめ、生活科や総合的な学習の時間の中で学んでいます。

次に、こどもたちが、規範意識等の道德性を身に付けるための取組についてです。

各学校では、道德の授業で、ロールプレイング等の手法を取り入れながら自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりすることを通して、よりよく生きるための基盤となる道德性を養っています。

課題としては、広島県教育委員会が行った、2023年度（令和5年度）第2回各市町道德教育推進協議会アンケートにおいて、「保護者や地域の人々の参加・協力による道德科の授業を行っている」と肯定的に回答した小中学校の割合が、28.0%と、家庭や地域資源を活用した取組が十分ではない点が挙げられます。

次に、本計画の点検・評価についてです。毎年度、3名の学識経験者の意見を付し、作成する「教育委員会点検・評価報告書」の中で点検・評価を行っており、数値指標の達成状況と、主な取組の実績内容から客観的・定量的に把握し、その後の取組につなげています。

2023年度（令和5年度）の報告では、幼児教育と小学校教育の連携、教職員研修、教育環境の整備などは、概ね順調に取組が進んでいるが、学力向上や不登校支援については、目ざす姿に向け、取組を改善する必要があると受け止めています。

そのため新年度は、学力定着状況調査の実施やネウボラセンターにおける相談窓口の拡充などに取り組んでまいります。

なお、各教科の学習指導要領に定められた目標の達成状況については、「目標に準拠した評価」や「個人内評価」等、定められた項目に沿って、各学校が適切に対応していると認識しています。

順序	7	質問日	3月6日	会派名	無所属	名前	石岡 久彌
----	---	-----	------	-----	-----	----	-------

発 言 の 要 旨							
2 生徒の学力向上問題について							

[教育長答弁]

学力向上についてです。

全国学力・学習状況調査において、国語や算数・数学などの教科学力の正答率40%未満の児童生徒の割合が増加していることに危機感を持っています。

新年度、学力向上支援事業として、小学4年生・5年生、中学1年生・2年生を対象に、国語及び算数・数学に関する学力定着状況調査を実施し、子どもたちの学力の状況を客観的かつ詳細に把握します。

そのうえで、一人ひとりの課題を早期に改善できるよう、教育委員会と学校がしっかりと連携し、分析結果なども活用しながら指導や支援の充実を図り、学力の向上に取り組んでまいります。

## 議第58号

臨時代理の承認を求めることについて（議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出）

福山市教育長に対する事務委任等に関する規則（平成29年教育委員会規則第2号）第3条第1項の規定により、議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出について別紙のとおり臨時に代理したので、同条第2項の規定により、報告し、承認を求める。

(別紙)

議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第29条の規定により、議会の議決を経るべき次の議案について、市長から意見を求められたので、同意する旨回答する。

- 1 令和6年度福山市一般会計補正予算（第8号）（教育委員会関係分）

1 令和6年度福山市一般会計補正予算（第8号）（教育委員会関係分）

**【歳入】 総額 2,219,468 千円**

(1) 国庫支出金 652,000 千円

区 分	充当先事業	金額(千円)
小学校耐震改修費等交付金	小学校施設維持改良費	435,500
中学校耐震改修費等交付金	中学校施設維持改良費	205,300
	中高一貫校校舎整備費	11,200

(2) 財産運用収入 10,068 千円

区 分	充当先事業	金額(千円)
教育環境整備基金益金	教育環境整備基金積立金	10,068

(3) 寄附金 500 千円

区 分	充当先事業	金額(千円)
社会教育費寄附金	図書等整備費	500

(4) 市債 1,556,900 千円

区 分	充当先事業	金額(千円)
義務教育施設整備事業債	小学校施設維持改良費	1,038,300
	中学校施設維持改良費	443,800
中高一貫校整備事業債	中高一貫校校舎整備費	74,800

**【歳出】 総額 2,219,468 千円**

(1) 国の補正予算によるもの（前倒し分） 2,208,900 千円

区 分	補正の概要	金額(千円)
小学校施設維持改良費	外壁劣化改修 10 校, 照明 LED 化 21 校, 給食調理場空調設備整備 16 校	1,473,800
中学校施設維持改良費	外壁劣化改修 5 校, 照明 LED 化 11 校	649,100
中高一貫校校舎整備費	照明 LED 化	86,000

(2) 寄附金対応 500 千円

区 分	補正の概要	金額(千円)
図書等整備費	辞書・事典等の購入	500

(3) その他 10,068 千円

区 分	補正の概要	金額(千円)
教育環境整備基金積立金	基金運用収入	10,068

**【繰越明許費】 3 件 2,226,900 千円**

費 目	事 業 名	金額(千円)
(小学校)学校建設費	施設維持改良事業(外壁劣化改修、照明LED化ほか)	1,473,800
(中学校)学校建設費	施設維持改良事業(外壁劣化改修、照明LED化ほか)	667,100
(中高一貫校)学校建設費	校舎整備事業(照明LED化)	86,000